

大阪精神保健福祉士協会における スーパービジョンへの取り組み ～スーパービジョン推進委員会（シンSV）第8報～

- 富澤 宏輔（大阪人間科学大学） 森 克彦（アンダンテ就労ステーション）
横溝 稔（浅香山病院） 西川 孝（サラダ倶楽部）
辻本 直子（オラシオン） 金 文美（大阪保健福祉専門学校）
安居 幸栄（ハートランドしぎさん）

大阪精神保健福祉士協会スーパービジョンの取組み

- 一般社団法人大阪精神保健福祉士協会（以下、当会）では2013年度にスーパービジョン（以下、S V）への取組みが提案され、2014年度から「スーパービジョンこれから普及プロジェクト」（通称：これプロ）を開始した。個別S Vの実践であるパイロット事業を行う。本年度で10年となった。
- 2015年度からスーパーバイザー（以下、S V R）養成講座を、2016年度から講座修了者の登録S V Rによる個別S Vを開始した。
- 本取組はパイロット事業のプロジェクトチームに始まり、現在は当会の研修体系の専門研修に位置づけられている。この活動は研修の運営のみにとどまらないことから、2019年に新たな要綱を策定し、S V事業を運営している。
- 本取組は、これまでに本学会で7回報告した（第14回・第15回・第16回・第17回・第19回・第21回学術集会。第17回では2演題）。

年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
SV実践	E募集	フォロー担当からマッチング結果のお知らせ	個別SV実施							SV終了報告 アンケート記入	SVR登録 登録更新	SVE募集	
フォローアップ 養成講座					夏カフェ			養成講座			春カフェ		
	←→ メーリングリストによる交流、情報発信 フォロー担当者との相談												
実行委員会	第1回 (月末) ・マッチング			第2回 (初旬) ・養成講座企画 ・夏カフェ企画 ・個別SVモニタリング				第3回 ・養成講座企画 ・SVR登録 ・SVE募集			第4回 ・年度まとめ ・年間計画作成 ・春カフェ企画		
ニュース	発行	締切	発行	締切 (講座募集)	発行	締切	発行	締切		発行 締切 (SVE募集)	発行	締切	

その他 初任者基礎研修SV体験(12月)、GSVパイロット事業

はじめに

- 直近の個別S Vの実施状況を報告するとともに、2022年度からグループスーパービジョン（以下、GSV）実施の検討をはじめ、パイロット事業としてGSVを実施した報告をする。
- 2023年度より「スーパービジョン推進委員会（シンSV）」に改称し進化する大阪協会におけるSVの取り組みを報告する。

個別S Vの実践

- 2022年度は通年で6名から申し込みがあった。マッチングを行った結果、5組が開始となった。

申込者	年齢	所属	経験年数	結果
①	20歳代	障害福祉サービス事業所	1	○
②	40歳代	精神科クリニック	1	○
③	30歳代	相談支援事業所	5	○
④	50歳代	地域包括支援センター	6	○
⑤	40歳代	精神科病院	16	○
⑥	40歳代	精神科病院	18	×

- 登録SVRの一覧を大阪協会の会員ページに掲載している。2名から希望するSVRの指名があった。

一般社団法人 大阪精神保健福祉士協会
 スーパービジョン推進委員会
 2023年度登録スーパーバイザー 一覧

(更新順)
 2023年8月4日現在

	名前	ふりがな	今年度 マッチング	所属機関名	経験 年数	職歴	専門領域	資格	専門職団体	学会等	SVR経験	SVE担当数	自己紹介とメッセージ
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													

「名前」「ふりがな」「今年度のマッチング」
 「所属機関名」「経験年数」「職歴」「専門領域」
 「資格」「専門職団体」「学会等」「SVR経験」
 「SVE担当数」「自己紹介とメッセージ」

- 本実践では、約半年に6回実施することとしているが、ここ数年はコロナ禍の影響によりなかなか日程の調整がつかず年度を跨ぎ長期化するペアが発生していた。しかし、2022年度の5組は年度内にすべて終了したことが報告された。
- 終了後アンケートの結果も参考にして、微調整を行い、継続していきたい。

G S Vパイロット事業

Ⅰ 事業の内容

本パイロット事業は、積年の課題であったG S Vの実施に向けて、実行委員がグループスーパーバイザー（以下、G S V R）とコリダーを担い、登録S V Rが参加者となり実施した。

【特長】コリダーの配置

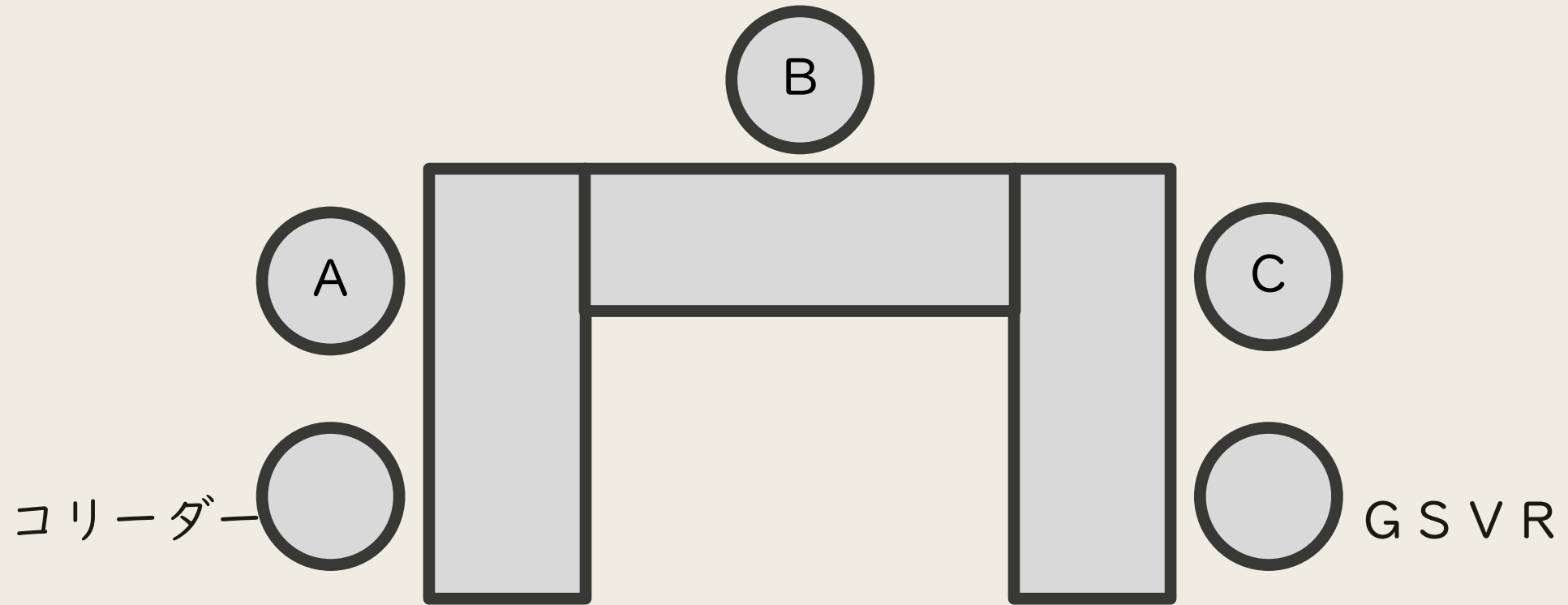
初任者研修で実施したG S V体験において試験的にコリダーを配置したが、その際に参加者相互の力動を円滑に引き出す効果があったことが実感され、G S V Rの負担軽減も兼ねて配置した。

【実施期間】 2023年1～3月に3回の予定だったが、2月と3月の
2回実施。

【参加者】 4名の申し込みがあったが、両日とも3名の参加。

- 毎回参加者1名の課題について、取り上げた。

■ 座席図



互いの顔が見えるように座る

2 考察

- 参加者は年齢、経験年数、実践分野の異なる3名であり、十分な**アイスブレイク**を行っていた。
- いずれも実践経験があるため、「iMessage」が基本的なやりとりとなっても**受け止める力量**があった。
- 2回目のセッションになると、参加者ごとの細かな点がわからなくても、
「皆で話をしていくことで引き出されていく」
「言葉にしていくことで見えてくるものがある」
という**ピアS V**の側面も発揮されていた。

- **コーディネーターの配置**について、対象が登録SVRということもありSVを理解しているグループであったためかコーディネーターが発言する機会はほとんどなかったが、GSVRにとっては「（グループの状況の変化により）役割が変化することから、**コーディネーターの存在が大きい**」との発言があった。
- ➡ 昨年報告した「初任者向けのGSV体験」では、コーディネーターがリーダー（GSVR）の意図をくみながらグループをサポートしたことから、コーディネーターを配置したGSVを継続して検証することとしたい。
- **（自分が）GSVRを行う場合**の「テーマ（キーワード）をどうとらえていくかが難しい」との声もあり、検討課題とした。

S V R カフェ

(S V R の情報交換、情報共有、ピアスーパービジョンの場)

- 夏カフェ（2022年8月実施）では、パイロット事業に向けてG S V をテーマにオンラインで実施した。
- 春カフェ（2023年2月実施）では、日本精神保健福祉士協会の新たな認定精神保健福祉士制度について話題提供し、新制度において重視される3つの領域の1つがS V であることを共有した。
- 久しぶりの対面開催で、近況報告にはじまり、個別S V の実際のやりとりや、終結の仕方についての質問がありスムーズに交流が行われた。

おわりに

- 大阪協会におけるS Vの取り組みは、今年10年目を迎えた。
- 2023年度も個別S Vには6名の申し込みがあり、マッチングを行った。現在5組が実施中である。
- G S Vの実施に向けたパイロット事業は継続しており、10月から1クール（3回）実施する予定である。その後、今年度中にG S V Rとコリーダーを変えて、もう1クール実施する予定である。

- **SVの実践の普及を進めるため**にプロジェクト名と通称を変更した。

スーパービジョンこれから普及プロジェクト（これプロ）

➔ スーパービジョン推進委員会（シンSV）

- 私たちのSVの取り組みは、

まさに SVの深（シン）化・進（シン）化・真（シン）価に

つながる取り組みであり、**ソーシャルワーカーとしての成長**につながる。

大会テーマ

ミッション！社会的復権の実現

～ソーシャルワーク実践の深化・進化・真価～

ご清聴ありがとうございました

☆本発表へのご意見・ご質問は以下までお願いいたします。

k-tomizawa@kun.ohs.ac.jp 富澤まで

☆これまでのスーパービジョンの取り組みは大阪精神保健福祉士協会HPに掲載しています。

各地域におけるSV普及の取り組みの一助となれば幸いです。

スーパービジョン推進委員会（シンSV）

<https://www.osaka-psw.org/sv%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%A7%94%E5%93%A1/>